芸才振

大分県芸術文化振興会議会報

No. 39　53. 9

発行所・大分市府内町　県教育庁文化課内　県芸術文化振興会議事務局
発行人・挾　間　正　年　編集人・浅　田　弘　明

さらに新しい夢の実現へ

大分県芸術文化振興会議会長　挾　間　正　年

昭和40年に大分県芸術文化振興会議が発足して以来、県内の芸術文化活動をふり返ると、感慨深いものがあります。

まず郷土に密着し、しかも多彩なジャンルの、水準の高い芸術創造活動が展開され、年を追うて軌道にのり、健全な歩みをつづけ、発展充実していることは誠によろこばしいことであります。それについては、歴代の会長はじめ、役員諸氏と各ジャンルのご熱意、そして、これに応えた県の関係機関のご協力に対し、心より敬意を表するものであります。

このたび、大分県芸術文化振興会議会長に就任するにあたり、諸々の先達の作りあげられたこの輝かしい歩みを更に誇らかに堅持するよう、その責の重大さを痛感し、より一層の発展を願いながら、まずもって、会長就任のご挨拶といたします。

ご承知のように大分県は文化的に古い歴史を持ち、その風土と伝統に培われた県民の中から、多くの優れた芸術文化関係者を輩出しています。この恵まれた環境と豊かな文化土壌に加え、われわれを勇気づけてくれたものとして、構想10年の永い「夢」と巨額の資金で、待望久しかった県立芸術会館の誕生があります。これは、県民の芸術的欲求の実りであり、大分県芸術文化発展の兆しであります。

新産都として、発展途上の大分県に、心豊かな人づくりを形成して行く上でも、誠に偉大な存在価値があります。同時に優れた郷土文化を生みだす源泉となり、芸術文化センターとしての機能を十分に発揮することでしょう。

また、併進して盛んな芸術創造活動は、回を重ねて14回の芸術祭を迎え、年毎に発展充実していることもよろこばしいことであります。県芸術祭は、県民あげて参加し、鑑賞し、県民文化を創造するところに意義があります。

文化団体組織の未結成の市町村や各種文化団体は、文化活動の母体となるよう、結成加盟をお願いし、地域的にも県民総ぐるみの県芸術祭としたいものです。

この県内芸術文化の向上発展と地域文化の振興を図るため、財源確保として芸術文化基金をということが目下検討されています。より潤沢な基金によって、創造活動の助成や地域文化の振興を図ることが目的で、他県でも実施されているところもありますので、十分検討して、これが実現できればまた「新しい夢」が生まれることでしょう。ふり返ってみると、われわれの熱意で「夢」は現実のものになっているではありませんか。……芸術文化の発展とこころ豊かな毎日をのぞみながら。

動きはじめた『文化基金構想』

大分県芸振会議事務局次長　後　藤　昭　六

大分県芸術文化振興会議が結成されて今年で15年目、県下の芸術文化活動の成果を総合的に発表公演する大分県芸術祭も14回を数えて、この10月から２か月間にわたって、これまで最高の110の諸行事が芸術の秋を彩ることになっている。

大分県芸術祭に参加する芸術文化団体は年々増加の一途をたどり、開催地も県下一円に広がり、加えて行事の内容も質的にも充実し、活動の形態も各流派を超えた合同公演や合同発表、あるいは主催団体に他団体が賛助出演するなど、各ジャンルを超えた、新しい芸術創造の動きがめだってきた。

こうした県下における芸術文化活動の盛り上がりは、いきおい活動の基底条件となる文化施設の整備や創作人口の拡大などに目が向けられ、年を追って努力が積み重ねられて、確実にその成果をあげている。

文化施設の整備については、来年３月完成が予定されている中津文化会館をはじめ県下の11の市民会館、文化会館が設置され、しかも、単なる貸館運営から脱皮して、自主文化事業の実施、照明・音響・舞台機構など技術担当の専任職員の配置を打ち出すなど、地域における芸術文化振興の〝基地〟として施設機能の充実をめざしている。

このような文化施設が県下各都市に建設されるにしたがって、すぐれた芸術文化の鑑賞機会の拡充はもちろん、創作活動も意欲的になり、しかも大型の作品が発表されるようになってきた。本格的な劇場設備と美術館を併せもつ県立芸術会館の開館は、この傾向をさらに強めてきているといえよう。こうなると既成の作品の発表公演にとどまらず、地域に密着したオリジナルな作品が生み出され、手づくりの芸術は、やがて中央→地方という芸術文化の流れを逆流させ、地域に育った創作活動の意義が見直されるほどに成長し、定着してきている。ここから大分という文化的風土に根ざした芸術文化の担い手を、今後どう養成していくかという避けて通れない課題に真正面から取り組む団体も現われてきているのである。

アマチュアの芸術文化団体が、創造の意欲を燃やすほどに、前面にたちはだかってくるのが製作費や発表公演に要する経費の厚いかべである。これまでは、団体構成員の自己負担（会費）と観客の動員（入場料）に依存し、地方公共団体の補助金の増額に期待を寄せながら、きびしい経済的基盤の整備に全力投球を続けてきたのが実情である。

芸術文化が、特定の階層の〝占有物〟であり、一般の人々にとっては手の届かない存在だという時代は過ぎた。それらが常に人間の生活の中に生まれ、育ち、人間の生活のささえとなっているということは、最近の芸術文化創造活動に参加する人々が増加しているいち事をとってみてもわかることである。

芸術文化が日常生活に浸透し、県民の主体的な取り組みが一般化する状況に対応して、活動の前提となる資金の確保の問題が関係者の間に論議され始めたとしても、それは当然の成り行きといわねばならない。いや、むしろ、その必要性が、具体的に行動化の次元に引き上げられたことが、それだけ芸術文化活動の広がりと高まりを示しているといえるのではあるまいか。

大分県芸術文化振興会議が今年結成15周年を迎え、そして大分県芸術祭が来年第15回の節目にくるという時機に、芸術文化団体の底流にくすぶり続けていた活動資金確保の問題が、文化行政の課題としても真剣に検討され始めている。文化基金構想がそれである。これは文化基金制度を設け、基金が生み出す運用利子をもって、芸術文化団体が実施する事業を助成しようというもので、まず手はじめに先進県の調査をしてみようということになった。九州各県への照会では長崎県と宮崎県が、すでにこの問題に取り組んでいることがわかった。以下、芸振会議事務局による２県の実態調査の結果を紹介してみたい。

＜長崎県＞

長崎県は、本県の芸術文化振興会議にあたる芸術文化団体として長崎県文化団体連絡協議会（略称・文団協）が組織され、目的別の県単位の団体10、市町村単位の団体14、計24団体で構成され、会長に県知事を迎え、予算規模は昭和53年度が726万円（うち県費補助486万円）となっている。

文団協の文化基金設立までの経緯をたどると、昭和50年の７月に文団協加盟団体の要請にこたえる形で、会長（県知事）は文団協総会において積立目標を１億円とする第１次（51～53年度）の文化基金構想を発表、昭和51年３月には県議会において、長崎県文化基金条例が可決、制定をみている。その後募金活動の順調なすべり出しを背景に、昭和52年７月の県議会で積立目標を３億円に引き上げる第２次（54～57年度）の文化基金構想を表明している。

文化基金設立の趣旨は、基金条例によると、「長崎県における芸術文化の振興と普及をはかるため、文化基金の運用利子をもって文化団体が実施する諸事業を助成し、団体活動を育成し、新しい郷土文化の創造を促進する」とし、募金計画は第１次、第２次通して７年間に３億円の基金を

積み立てるため、県費１億3,000万円、一般募金（寄付金）１億7,000万円を目標としている。

募金活動は、文団協に10人で組織する文化基金委員会を設置し、趣意書の配布のほか、文化基金協力事業費20万円を計上、企業訪問や各地区での文化懇談会で協力を呼びかけ、大口については、寄付の分割納入方式も採用、昭和52年９月の断面で県費3,000万円を含め、積立金は9,400万円（寄付予約を含む）に達している。

基金の運用利子は、昭和52年度に、すでに246万円が生み出され、文団協に110万円、文団協加盟団体の事業に136万円が補助されている。基金の事業内容は総合芸術祭等県事業との提携、文化団体に対する事業助成、それに新人の育成や国際文化交流事業にも力を入れるという。ただ、長崎県の場合は、地方自治法にもとづく基金制度として条例化され、県の行政施策として明確に位置づけられていること、文化団体への補助金は、文団協が一括受け入れ、加盟団体に配分するとともに、文団協独自の自主事業もこの補助金を受けて実施している点が特徴的である。

＜宮崎県＞

長崎県に対して宮崎県の文化基金計画は、きわめて対照的である。宮崎県は、宮崎県芸術文化団体連合会（略称・芸文連）が組織されているが、ここは、県下全域にわたる総合団体が３団体、これに目的別の各種文化団体29団体が加わり、合せて32団体で構成され、会長は民間人が就任、年間の予算規模は201万2,000円（うち県費補助70万円）、長崎県同様個人会員制は採っていない。

長崎県文化基金に対して、こちらは宮崎県芸術文化振興基金という名称。昭和51年の10月、芸文連総会で基金づくりのための企画委員会の設置を決めたのが設立経緯の発端で、この時、県知事・県の教育長に「宮崎県芸術文化振興会設置に関する要望書」を提出し、同年12月に芸文連代表が県知事に予算陳情し、県の積極的な支援を要望している。

長崎・宮崎両県の基金の基本的な違いは、長崎県が地方自治法による基金条例として制度化したのに対して、宮崎県は社団法人「宮崎県芸術文化振興会」として設立する点である。

設立の趣旨については、県下の芸術文化の創作活動にたずさわるすぐれた才能を発掘し、育成することを主眼として郷土の芸術家たちによる発表活動を助成し、活動の舞台も国内にとどまらず海外の研修にも送り出そうというユニークなもの。このほか文化団体への補助、貸付金制度の採用、芸文連が各種文化事業を企画実施することをうたっている。

基金計画は、昭和52年度から３か年計画で、積立目標は5,000万円とし、県費補助金3,000万円、市町村補助金500万円、篤志家（企業等）寄付金500万円、それに芸文連会員の拠出1,000万円を集める予定で、すでに昭和52年２月から会員の出資金拠出を開始している。

募金活動は、芸文連に副会長を事務局長とする５人の基金担当理事会を設け、基金事業趣意書を配布し、協力を呼びかけているが、昭和52年度は、会費出資金300万7,000円、県費補助金500万円で総額801万5,000円、あてにしていた県費補助金は予定（1,000万円）の２分の１に削減されているため、昭和54年度に社団法人設立の見通しが危ぶまれ、基金計画の手直しに迫られているのが現状である。

宮崎県の文化行政担当者は、芸術文化振興基金は、あくまで民間ペースで進めるという考えで臨んでいるが、基金の運用利子が実際に芸術文化活動にうるおいを与えるのは、まだ先のことになりそうである。

＜大分県＞

大分県の動きはどうか。県芸術文化振興会議の事務局長を務める浅田文化課長は、昭和52年12月22日の芸振会議理事会の席上、芸術文化の振興をはかるうえで、これまでの県費補助金には限度があるので、新たに基金を設けて運用利子による事業助成をするという文化基金構想具体化の必要性を強調した。

これを受けて事務局による長崎・宮崎両県の実態調査となったものであるが、昭和53年６月15日の芸振会議理事会でその調査結果が報告され、文化基金の条例化、法人化の両面から意見の交換が行われた。

こうした経過を踏まえて６月22日の昭和53年度芸振会議総会では、次の事項が事務局から提案された。

① 設立の趣旨・目的

大分県の芸術文化の向上発展をはかるため、創作活動の助成と地域文化の振興をはかり、さらに、県内外の文化の交流を促進する。

② 事業内容

芸術文化（又は文化）基金の運用利子をもって、芸術文化に関する自主事業の推進、芸術文化団体が実施する事業の補助、新人育成と県内外の文化交流を推進するほか芸術文化団体独自の事業に必要な経費の一部貸付助成を行う。

③ 業務開始

53年度中に募金活動についての取り組みを始める。

④ 基金計画

基金額は、基金の運用から生ずる利子をもって、設立の目的をじゅうぶん達成できる額とし、年次計画をもって基金の積み立てを行う。

⑤ 基金の所掌部局　大分県教育委員会

芸振会議総会は、基金の性格をめぐって論議がかわされたが、基金の具体策及び推進については、理事会があたることを了承し、事務局提案が承認された。

文化基金の構想実現化は、芸振会議会員の熱望されるところであり、県下の芸術文化活動発展の基盤となる事業だけに、今後は基金設立の理念をさらに追求し、その適切な運用を含めて、関係者のじゅうぶんな理解を深める必要があろう。 [redacted])

大分県芸術文化振興会議役員・事務局員名簿

53年6月22日の総会において、次の名簿のとおり選出された。任期は2カ年間である。　　昭和53年度（50音順）

役職名	氏名	団体名	住所	〒	TEL
顧問	河野　彰		大分市		
〃	佐藤義詮		別府市		
〃	辻　英武		大分市		
〃	米田貞一		別府市		
会長	挾間正年		大分市		
副会長	辛島武雄		大分市		
〃	進来　哲		別府市		
〃	土屋元造		別府市		
〃	宮崎　豊		大分市		
監事	小長久子		大分市		
〃	田村卓夫		大分市		
理事	安部遊雲	県美術協会副会長	別府市		
〃	江藤豊南	別府民踊百踊会事務局長	別府市		
〃	遠藤梢山	県三曲協会会長	大分市		
〃	大崎聡明	県美術協会副会長	大分市		
〃	岡　博	大分市教委社会教育課長	大分市		
〃	木村成敏	県文化団体連絡協議会理事	大分市		
〃	菅　久	県芸振会議事務局担当	大分市		
〃	園田喜平	県民踊連盟副会長	大分市		
〃	高橋長一	臼杵史談会会長	臼杵市		
〃	田川　奨	県美術協会副会長	杵築市		
〃	津崎一石	県華道協会会長	大分市		
〃	中沢とおる	県民演劇制作協議会事務局長	大分市		
〃	中野幸和	県職場音楽連盟理事長	別府市		
〃	仲町謙吉	県美術協会副会長	大分市		
〃	波多野義孝	県宣伝美術協会会長	大分市		
〃	花柳有旬秀	県日本舞踊連盟理事長	別府市		
〃	樋口愁枯	県洋舞踊協会会長	日田市		
〃	深田光霊	日本詩道会会長	大分市		
〃	丸岡　久	大分勤労者音楽協議会会長	大分市		
〃	三河尻修二	県児童文化研究会会長	大分市		
〃	宮瀬香多士	大分合同新聞文化センター	大分市		
事務局長	浅田弘明	県教委文化課課長	別府市		
次長	後藤昭六	県教委文化課課長補佐	大分市		
〃	広瀬晴四郎	県美術協会会員	大分市		
〃	藤原嘉久	県層雲会員	大分市		
事務局職員	太田悠一	県教委文化課文化専門員	大分市		
〃	佐藤七夫	県教委文化課主査	別府市		
〃	十時　良	県美術協会会員	大分市		
〃	辛島光義	県音楽協会会員	大分市		

事務局　大分市府内町3丁目10番1号　（〒870）
大分県教育庁文化課内
TEL　0975　36—1111　内線 728

昭和52年度収支決算書

収入の部						支出の部					
区分	当初予算額	補正予算額	予算現額	決算額	差引増減額	区分	当初予算額	補正予算額	予算現額	決算額	差引増減額
補助金収入	550,000	0	550,000	550,000	0	賃金	150,000	25,000	175,000	175,000	0
県費補助金	550,000	0	550,000	550,000	0	報償費	110,000	0	110,000	110,000	0
会費収入	336,000	20,000	356,000	355,500	500	旅費	59,000	0	59,000	49,230	9,770
団体会費	234,000	18,000	252,000	252,000	0	需用費	950,000	125,000	1,075,000	1,011,820	63,180
個人会費	102,000	2,000	104,000	103,500	500	印刷消耗費	935,000	105,000	1,040,000	988,320	51,680
事業収入	200,000	0	200,000	200,000	0	食糧費	15,000	20,000	35,000	23,500	11,500
年鑑収入	200,000	0	200,000	200,000	0	役務費	75,000	30,000	105,000	105,000	0
雑収入	236,100	171,000	407,100	406,332	768	通信運搬費	75,000	20,000	95,000	95,000	0
広告料	230,000	170,000	400,000	400,000	0	広告料	0	10,000	10,000	10,000	0
預金利息	6,100	1,000	7,100	6,332	768	使用料及賃借料	40,000	0	40,000	40,000	0
繰越金	68,900	0	68,900	68,900	0	予備費	7,000	11,000	18,000	8,050	9,950
合計	1,391,000	191,000	1,582,000	1,580,732	1,268	合計	1,391,000	191,000	1,582,000	1,499,100	82,900

次年度へ繰越　1,580,732－1,499,100＝81,632

昭和53年度予算書

収入の部					支出の部				
区分	当初予算額	前年度予算額	比較増減	積算基礎	区分	当初予算額	前年度予算額	比較増減	積算基礎
補助金収入	870,000	550,000	320,000		賃金	360,000	175,000	185,000	事務局員賃金 60,000×6カ月 ＝360,000
県費補助金	870,000	550,000	320,000		報償費	155,000	110,000	45,000	年鑑執筆謝金 3,000×30＝90,000 年鑑編集謝金 5,000×9＝45,000 芸振編集謝金 5,000×4＝20,000
会費収入	644,000	356,000	288,000		旅費	175,000	59,000	116,000	文化振興基金説明会等
団体会費	504,000	252,000	252,000	3口 6,000×84＝504,000	需用費	1,040,000	1,075,000	△35,000	
個人会費	140,000	104,000	36,000	1口 2,000×70＝140,000	印刷消耗費	1,010,000	1,040,000	△30,000	芸振 280,000 年鑑 850円×800部 ＝680,000 文具 50,000
事業収入	0	200,000	△200,000		食糧費	30,000	35,000	△5,000	理事会　事務局会議
年鑑収入	0	200,000	△200,000		役務費	90,000	105,000	△15,000	
雑収入	267,368	407,100	△139,732		通信運搬費	90,000	95,000	△5,000	切手　ハガキ
広告料	260,000	400,000	△140,000	文化年鑑 30,000×8頁＝240,000 会報 5,000×4回＝20,000	広告料	0	10,000	△10,000	
預金利息	7,368	7,100	268		使用料及賃借料	23,000	40,000	△17,000	理事会　総会会場費
繰越金	81,632	68,900	12,732		予備費	20,000	18,000	2,000	社教団体負担金 払込手数料
合計	1,863,000	1,582,000	281,000		合計	1,863,000	1,582000	281,000	

大分県立芸術会館主催事業の紹介

（S53.9～S54.3）

＜美　術　館＞

展覧会の名称	期　日	内　容	入　場　料（予定）
館蔵品による特別展示 浮　世　絵　展	9月5日(火) ～ 10月15日(日)	館蔵品の浮世絵50数点を初公開する。菊川派の英山、英泉、歌川派の豊国、国貞、国周を中心にして。	一　般　100円（団体60円） 高・大生　60円（40円） 小・中生　40円（20円）
糸　園　和　三　郎　展	9月30日(土) ～ 10月22日(日)	日本美術史上、重要な役割を果たしている県出身の作家、糸園和三郎の代表作。約130点を集めて展示する。	前売　当日 一　般　300円　400円 高・大生　200円　300円 小・中生　100円　200円 親　子　350円　—
第12回 現　代　美　術　選　抜　展	11月21日(火) ～ 12月3日(日)	わが国美術界を構成する各美術団体の受賞作品のうちから文化庁が選定した日・洋・彫・工などの秀作70点を展示する。	一　般　300円（団体200円） 高・大生　200円（100円） 小・中生　100円（50円）
松方コレクションを中心とした 国立西洋美術館名品展	12月20日(水) ～ S54 1月31日(水)	国立西洋美術館所蔵の中から松方コレクションの名品を含めた近代西洋美術作品を展示する。	前売・団体　当日 一　般　500円　600円 高・大生　300円　400円 小・中生　200円　300円
大　分　近　世　書　跡　展	2月10日(土) ～ 3月11日(日)	江戸時代から明治時代初期にかけて、活躍した県出身の学者、文人などの書及び名硯を展示する。	一　般　200円（団体150円） 高・大生　150円（100円） 小・中生　100円（50円）

＜文化ホール＞

事業の名称	期　日	内　容	入　場　料（予定）
ふるさと民俗芸能鑑賞シリーズ 北原人形芝居をみる会	10月15日(日) 午後1時	ふるさとに残る民俗文化財を鑑賞するシリーズとして、県指定無形民俗文化財の北原人形芝居を上演する。	一　般　500円 学　生　200円
ベルリン国立歌劇場 管　弦　楽　団　演　奏　会	10月29日(日) 午後6時30分	モーツァルト後期3大交響曲の夕べ 指揮＝オトマール・スイットナー 交響曲　39番・40番・41番	S　席＝5,000円 A　席＝4,000円 B　席＝3,000円 全指定席
芸術会館創作実験劇場	11月21日(火) 午後6時30分	県内の自立劇団―つみ木座―による、八木柊一郎の「三人の盗賊」 （四幕）	一　般　1,000円 学　生　500円
能の美鑑賞シリーズ 演　能　会（観世流）	1月27日(土) 午後1時	能の美鑑賞シリーズとして観世流宗家を招き狂言等を含めた本格的演能会 演目・羽衣・昆布売・舟弁慶　ほか	一　般　3,000円 学　生　1,000円
厳本真理弦楽四重奏団 演　奏　会	3月3日(土) 午後6時30分	国際的にも第1級の厳本真理弦楽四重奏団の演奏会 解説者　団　伊玖磨 曲　目　シューベルト弦楽四重奏曲	S　席　＝　2,000円 A　席　＝　1,500円 B　席　＝　1,000円

初の県芸術祭賞（市町村）を受けた頃

渡辺泰三
犬飼町民文化会議事務局長

山に抱かれて、流れに沿うて、沿うて抱かれたような小さな町。

昨年町史の一部分、戦後の町民文化の流れを記録と記憶をたどってまとめてみたのである。

終戦直後の何もない町に倉庫のような翠紅館という古びた劇場があり、当時の青年たちが演劇(村芝居)、民踊、それに楽団、今日でも信じられないようなドラム、クラリ、バイオ、アコー、ギター。新しい時代のふるさと作りを目指して、新犬飼音頭が作られた。恵まれた現代の若者たちに比べ、生き生きとした姿があった。なぜならば、未だに鮮明な記憶として残っているからである。こうした活動が、戦後の町民文化の基礎になったことは事実であろう。

螢火が乱舞し、若鮎がハネて、豊後花火の色どりに祭バヤシの音色が流れていて、月見草が花咲く風土に包まれて、少年期を過ごした年代が、昭和三十四年五月、中央公民館で、青年演劇サークル「あすなろ」を結成した。そして県青年演劇祭で優秀な成績を続けたのである。昭和三十八年五月二十五日、全町内の各グループが結集し、町民文化会議が中央公民館で結成された。少年期に焼きつけられたあの生き生きとした姿の再現であった。結成当時の町民文化祭は、春秋二回の公演で会場はいずれも満員となっていた。

芸振会議、県芸術祭にも最初から参加して第二期の黎明期を迎えた。町村単位では、初の第三回県芸術祭賞を頂き、絵画サークルぴよぴよから大宣美展で知事賞、文芸部会から反省の日、大分県短文学大会で短歌部門で最優秀賞と、枚挙にいとまがないほどの運動が花咲き、他町村をリードする評価をうけていた。青年演劇も、県青年祭で三度目の最優秀賞で全国大会へ、こうした流れも、近代メカニズムの激流に見舞われ、町の風土が不可抗力的に変えられてしまったのである。国道が三本も走り、祭バヤシに変わり、救急車のサイレンが鳴りひびく町と成りさがり、意欲的な若者は都会へ流れていってしまったのである。昭和三十年の町村合併で残さねばならぬ伝統芸能も捨てられてしまった。あぶハチとらずの文化行政。老齢化する町村社会、失なってはならないものまで失ない、全町民的行事が困難になってきた。ドラスティックな地方財政。文化会議には皆無に等しい補助、助成の中で今日迄活動を続けてきたのである。

本年度の最大目標は、県のふるさと作り運動推進協議会に参画した「ふるさとの唄と踊り」犬飼音頭の発表会と盆踊り大会であった。物品販売で全町村の協力で成功裡に全行事を終えた事は、先人の残してくれた文化遺産を受け継いだ文化会議の一つの成果であったと信じている。

町民の文化活動の中心であった町中央公民館も無人の館と化している。文化会議は第三の黎明期を期待して町中の話題となっている新しい中央公民館の建設場所が、町民、つまり人間を対象とした社会教育実践の場となりうる位置に建設してほしいと願っている。

河は流れる、流れは清くあってほしいと願う心は母なる大野川を知る地域住民の共通した想いであろう。

[redacted]

文化ニュース

第14回大分県芸術祭の開幕近づく

恒例の大分県芸術祭はあと僅かで開幕となる。開幕行事は10月1日（日）13：00から、大分県立芸術会館文化ホールで行なわれるが、この記念公演として、大分県日本舞踊連盟により、創作日本舞踊の公演を行なう。

開演は昼の部13：00、夜の部17：00から、番組は「車」「西遊記」「恋すちょう」の三題。出演者は、東京から花柳芳次郎・藤間章作師を招き、連日きびしい稽古に励んでいる。内容は技術的にも、きわめて高度のもので、本県日本舞踊の最高水準を示そうとする意欲的なもの。日本舞踊を見なれていない人にも楽しく分り易く、また造詣の深い方にも充分見ごたえのあるもので、関係方面から期待されている。

入場料は3,000円、座席指定なし。入場券御希望の方は電話申込みでも受けつけることになっている。

[redacted]

美術の創造に奉仕して53年

ガクブチ各種
日本画・油えのぐ
デザイン材料
貸画廊

キムラヤ

電話でお気軽に

〒870 大分市府内町三丁目
TEL ㉜ 5056

大分県芸術祭運営協議会委員決まる

県芸術祭における主催者の諮問にこたえるために設けられている県芸術祭運営協議会委員について、県教育委員会から次の各氏に委嘱された。

なお、今回の委員のメンバーの特徴は、できる限り幅広いジャンルから選出されたことで、任期は2か年間である。

また、互選の結果議長に県美術協会事務局長仲町謙吉氏、副議長に県音楽協会事務局長山本勝彦氏が就任した。

大分県芸術祭運営協議会委員

＜昭和53・54年度＞

部門		氏名	連絡先
文芸	短歌	山住久	大分市
	俳句	久保青山	大分市
	川柳	疋田青峰	大分市
美術	日・洋・彫・工	議長 仲町謙吉	大分市
	宣伝美術	波多野義孝	大分市
音楽	音楽協会	副議長 山本勝彦	別府市
	交響楽	山本恭正	大分市
	オペラ	小長久子	大分市
	合唱	挟間文男	大分市
	吹奏楽	糸永信義	大分市
	職場音楽	中野幸和	県庁企
	マンドリン	福田五彦	大分市
	三曲	遠藤梢山	大分市
	詩吟	後藤隆霊	大分市
	民謡	池田萬龍	大分市
舞踊	日舞	花柳有句秀	別府市
	洋舞	湯原恭子	別府市
	民踊	園田喜平	大分市
能楽		河野新一	大分市
演劇	自立	中沢とおる	大分市
映画・放送	小型映画	麻生尚寿	大分市
児童文化		三河尻修二	大分市
生活芸術	華道	津崎一石	大分市
	茶道	桑原秀礼	大分市
総合		五島辰夫	大分市
文化施設		衛藤久	大分市
主催者	県	倉田安雄	県総務
	県教委	浅田弘明	県総合
	県芸振	挟間正年	大分市
	大分合同	宮崎寛一郎	大分市
		中満	大分市

＜芸振だより＞

―芸振事務局からのお願い―

4月7日付け、大芸振第1号により、大分県芸術文化振興会議加盟団体の調査について、県芸振加盟112団体の代表者又は事務局長さんに調査の回答（〆切6月30日）を御依頼しましたが、回答を頂いた団体はごく僅かです。〆切を10月末日に延期しますので、未回答団体は御協力下さい。

※53年度会報「芸振」の発行は9月、11月、54年1月、3月の予定です。